



# 学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryoakusho/>

令和7年10月31日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



## 「開校150周年」おめでとうございます

校長 山崎 隆

10月18日開校記念日当日、山本亨墨田区長、佐藤篤墨田区議会議長をはじめ多くのご来賓、地域、記念事業協賛会、PTA、実行委員会の皆様、墨田区教育委員会、歴代校長をはじめ旧教職員、区内幼稚園・小中学校の先生方など、両国小の子供たちにかかわるたくさんの皆様をお招きして、150周年記念式典が盛大に行われました。全校児童を代表して6年生が立派な態度で参列し、学校の歴史や未来につなぐ思いを「喜びの言葉」と歌にのせて披露しました。また、アトラクションではすばらしい合奏を響かせてくれました。6年生の立派な発表に会場の拍手がいつまでも鳴り止みませんでした。

以下は、当日の校長式辞です。

両国の街並みが時代とともに変遷を遂げる中で、この地に根ざし、子供たちの教育を担ってきた両国小学校。始まりは、明治5年、戸枝一氏が回向院の民家を借り受けて幼育社を起こし、地域の子供たちを集めて教育したことです。明治8年10月18日の第6中学区9番小学「江東（こうとう）学校」開校から、地域をはじめ本校にゆかりのある数多くの人々に支えられ、歴史と伝統を紡ぎながら150周年を迎えました。

学校の歴史を振り返るとそれは決して平坦な道ではなく、大変な苦勞を乗り越えながら子供たちはたくましく成長してきました。大正12年9月1日、関東大震災が起きました。学校は全焼しましたが、勉強を続けたいという子供たちの願いを受けて、翌年には仮校舎での学校生活が始まりました。そして、昭和2年には、鉄筋三階建ての新校舎が完成しました。しかし、18年後、学校は再び苦難に見舞われます。昭和20年3月10日の東京大空襲で校舎の内部はすべて焼けてしまいました。学校が一時廃校になるという悲しい出来事もありましたが、地域の人々が学校の建て直しに努力してくださり、昭和25年に墨田区立江東（えひがし）小学校として復校をとげ、翌年には、学校や地域の人々の強い願いにより「両国」の地名をいただいて墨田区立両国小学校が新しく誕生しました。学校のシンボルである校章が現在のデザインになり、子供たちが両国の地域と人々になじみ、学校と地域を愛し、誇りをもって通えるように、そして隅田川の流れの永遠性や発展性にあやかっておおらかに成長していけるようとの願いが込められています。

両国小学校は、明治・大正・昭和・平成と、それぞれの時代にいろいろなかたちでいつも子供たちとともにその歴史を重ねてきました。時に名前が変わり、時に校舎が建て直されても、教育目標「進んで学ぶ子ども」「たくましい子ども」「心の温かい子ども」の実現を目指して、学校を支えてくださるすべての方々とともに努力を重ねてきたのです。

時は流れ、令和の学校生活を送る6年生のみなさん、みなさんが社会人となりいろいろな職業や分野で活躍している21.5世紀はどんな世の中になっているのでしょうか。10月13日で幕を閉じた大阪・関西万博では、持続可能な未来を構築し、「いのち輝く未来のデザイン」の実現を目指して最新の科学技術や多様な文化が展示され、未来の日本や世界の姿をイメージすることができます。また、様々な仕事において、今まで人間が行っていたことをAIが行ったり、学校では一人1台のタブレット端末や電子黒板が当たり前のように使われています。とても便利で快適な暮らしが進んでいます。しかし、未来は夢や希望あふれる姿ばかりではないかも知れません。みなさんは新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって今までの学校生活や人々の暮らしが大きく変わった時代も経験しています。先輩方が震災や戦争という大変な苦難を乗り越えてきたように、今、そしてこれからの未来に生きるみなさんにも、自らの力で考え、仲間と力を合わせ、よりよく学習や生活に励み、夢をもって、先輩たちがつないでくださった素晴らしい姿を未来へ継承していったほしいと願っています。

結びに、記念事業の実施に際し、多大なご尽力をいただいた多くの皆様に深く感謝とお礼を申し上げますとともに、両国小学校への一層のご支援をお願い申し上げ、式辞といたします。